

市民協働かわら版

No.45

発行 泉南市総合政策部政策推進課
〒五九〇〇五九二 泉南市樽井一―一
Tel: 〇七二―四八三―〇〇〇四

(平成三十年四月四日発行)

三月二十七日(火)平成二十九年第十一回「泉南・市民まちづくりサロン」が泉南市埋蔵文化財センターで開催され、五名(市民三名、職員二名)の参加でサロンが始まりました。

【共催：泉南市ABC委員会】

三月も下旬、すっかり暖かくなりました。今回のサロンの参加者は五名でした。少ない参加でしたが、泉南市のことについて話をしました。サロンは自由参加です。なので、みなさん、お気軽にご参加ください。少人数のときは、少人数なりに面白い意見が飛び交います。

◎泉南市を伝えよう

今回の参加者から、「泉南物語」について、まとめた資料が出されました。熊野街道にかかるとめ、お菊松の伝承、山田家住宅について等、興味深くまとめてくださっていました。私たちの暮らす泉南市には深い歴史があります。埋もれさせるのはもったいない物ばかりです。子ども達に伝えたいお話しがたくさんあります。

泉南市の花の季節

四月です。「花笑み泉南」

花の街、泉南市では金熊寺のウメが終わり、サクラを初め様々な花がほころび始めます。



堀河ダム、種河神社、一岡神社と市内にはサクラの名所がたくさんあります。四月下旬には信達宿のノタフジ、五月には林昌寺のツツジ、六月には長慶寺のアジサイ、夏の盛りには農業公園のイングリッシュローズが咲き乱れます。その他にも、岡田浦のハマヒルガオや信達小学校前のヒマワリなど、見どころがたくさんあります。泉南市ABC委員会は、花いっぱい運動を展開し、泉南市の花サクラソウの普及活動を行っています。四月二十九日(日)は恒例のABC祭り、会場となる体育館にはこの冬株分けしたニホンサクラソウが可憐な花を咲かせているはずですよ。

◎古文書の中の泉南市

中世、一世を風靡した「熊野詣」、蟻の熊野詣と言われるように、熊野へ向かう人の列が蟻のように連なっていたといわれます。今回、まとめてくださった熊野街道についての資料の切り口は、古典文学から見た熊野街道です。有名な歌人、藤原定家の「熊野御幸記」や説話集「今昔物語」などの中に、泉南市での出来事が生きいきと描かれています。熊野街道の別名は「小栗街道」、照手姫と小栗判官の純愛物語「小栗判官」から街道の名前が付けられています。泉南市が出てくる最初の文献は、なんと「日本書紀」です。神話の時代から続く泉南市、こんなことを考えながら街を歩くと、普段見慣れた街角や風景も一変するはずですよ。

◎「泉南物語」を具体化する

「泉南物語」第一回、新家編というのは決まっています。これから具体的な話をしていく必要があります。いつ、誰が、どうやって等々、これから詰めていくこととなります。手作りでつくります。資料もお話しも参加者が主体でやります。話すのは苦手だなという方は裏方でもかまいません。関わる、繋がるのが大切です。一緒に繋がりませんか。

◎「サロン」の広がり

「泉南物語」、今はサロンに出てくれているメンバーが主となってやっていますが、随時、誰でも参加できるようにしています。泉南市という土壌で、蔓が伸びるように人と人が繋がって広がれば面白いと思いませんか。泉南市をもっと良くしたい。もっと知りた。伝えたい。お茶もお菓子もありませんが、好奇心で満腹になること間違いなしですよ。みなさん、サロンにお越しください。

熊野街道を歩いてみよう!



泉南市マスコットキャラクター
「せんなんくまじろう」
「泉南熊寺郎」「せんくま」